

平成28年度 大阪府立大手前高等学校 第3回学校協議会議事録

- 1 日時 平成29年2月8日(水) 14時00分～16時00分
- 2 場所 本校校長室
- 3 内容 説明と協議
 - ① 開会
 - ② 校長挨拶
 - ③ 会長挨拶
 - ④ 委員・出席者紹介
 - ⑤ 校長より説明
 - ・生徒状況について
 - ・行事等の報告
 - ・平成28年度 学校経営計画及び学校評価(案)について
 - ・平成29年度 学校経営計画(案)について
 - ・学校診断集計結果について
 - <生徒項目>
 - ・「校長の話は興味深い」の項目、今後も集会等での挨拶だけでなく、日々の生徒とのふれあいの中で声かけ等を行っていきたい。
 - ・「SSHの肯定的評価」の項目、文理学科は、課題研究などの科目も設定されていて、生徒も評価しやすいが、普通科には、希望者対象に参加できるものが多く、全体として、どの教育活動がSSHなのか、認識が薄い。
 - ・「施設設備の整備」の項目、校舎敷地の狭さは改善しようがない。トイレを改善してほしいとの声も聞く。トイレは今後三年間で改修が行なわれる予定
 - ・「生徒の意見や要望に誠実に対応」の項目の下がり方が大きいことが気になる。信頼関係を築き、先生方に対して、生徒に寄り添う姿勢の重要性を周知していく。
 - <保護者項目>
 - ・生徒に比べて保護者は評価の高いものが多かったが、施設設備については生徒と同様、保護者の評価も低い。
 - ⑥協議(進行 岡村会長)
 - ・29年度学校経営計画について
 - 前回第2回の学校協議会での意見を踏まえて、新たに阪大研修(サ

マースクール1年)の実施を決めたことは、高く評価できる。

- ・学校教育自己診断から「生徒の一人ひとりが大切にされているか」という観点で見ると、生徒と教員に意識の乖離が見られる項目がある。教員の一方的な考えではなく、相対化させて見るのが大切だ。つまり、生徒や保護者に教育活動がどのように伝わっているかを考えながら教育活動を行うことが大切だ。
- ・学校教育自己診断など様々な場面で出る生徒の声は、校長に届くだけでは不十分で、教育委員会に届けることも大切だ。

⑦自治会生徒(代表)との意見交換会

- ・生徒から見た大手前高校に対するイメージ

「自分を高めてくれる学校」

「がんばりたい人が冷やかされたりせずがんばれる学校」

「いろいろな学びのチャンスがある学校」

「様々な意味での賢い人が集まる学校」

「いろんな経験が accrue する学校」

- ・委員の感想

生徒が学校に対して、自信と誇りを持っている。伝統が引き継がれている。自治会生徒は、教員とも議論を交わすことが多く、教育活動の趣旨や目的を理解し、大手前の良さを実感しているが、他の生徒にも、もっと共有されるとよいと思われる。

⑥校長挨拶

自治会生徒は、生徒同士はもちろん、教員ともしっかりと議論できる。自主活動はこれからも大切にして、生徒の成長を支援していく。

しかし、一方で生徒の多様性も増しており、関わり、寄り添いを必要とする生徒も増えている。教員間の緊密なコミュニケーションが必要であると認識。学年団組織を改編したいと思う。また中学校との連携も充実させていく

⑦ 閉会

※ 資料

- ・平成28年度 学校経営計画及び学校評価(案)
- ・平成29年度 学校経営計画(案)
- ・学校教育自己診断集計結果